

令和7年度 大阪市立大正西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【2年生チャレンジテスト】

【成果と課題】

【国語科】

【調査結果概況について】

「情報の扱い方に関する事項」及び「書くこと」の事項においては、大阪府平均を上回ることができた。

「話すこと・聞くこと」においては、±0点であった。

「我が国の言語文化に関する事項」と「読むこと」は共に、大阪府平均より-0.9点であり、今後特に力を入れて指導していくべきだと考える。

◎設問別結果より

大阪府と本校の正答率に差が大きかった設問は以下の順である。

- ①動作を行っている人物が他と異なるものを選択する問題 -10.8%
- ②現代仮名遣いに直して書く問題 -10.7%
- ③本文中の内容について説明したものとして適しているものを選択する問題 -10.1%

【数学科】

【調査結果概況について】

領域別「関数」、形式別「記述式」以外は大阪府の平均を超えることができた。

【理科】

【調査結果概況について】

【問題別調査結果について】

大阪府平均46.7に対して本校平均点は46.3であった。

領域別の平均点は

- ・粒子 大阪府平均 18.1に対して本校平均点 17.8
- ・生命 大阪府平均 20.0に対して本校平均点 19.7
- ・地球 大阪府平均 8.9に対して本校平均点 8.5

問題形式別の平均点は、

- ・選択式 大阪府平均 33.6に対して本校平均点 33.2
- ・短答式 大阪府平均 10.3に対して本校平均点 10.6
- ・記述式 大阪府平均 2.7に対して本校平均点 2.6

上記の結果から、ほとんどの観点・領域においてほんの少し点を下回ってしまっていることが全体の平均点を下げてしまったのではないかと考える。

また得点分布では、大阪府の平均点付近の人数分布はやや少なく、前後の人数が多くなっている

【英語科】

【調査結果概況について】

【問題別調査結果について】

◎全体の平均点

大阪府51.8点に対し、本校52.5点であり、+0.7点であった。

◎学習指導要領の領域別平均点

「聞くこと」の領域において大阪府の平均点を0.6点、「読むこと」の領域においては0.5点上回った。、「書くこと」の領域においては0.4点大阪府の平均を下回った。

◎評価の観点別平均点

「知識・技能」+0.0点、「思考・判断・表現」+0.7点と、大阪府平均を上回った。

◎問題形式別平均点

「選択式」+0.9点、「短答式」+0.1点、「記述式」-0.4点と大阪府平均を下回った。

◎上記の結果から

領域では「書くこと」、問題形式別では「記述式」において、大阪府平均を下回った。

【社会科】

【成果と課題】

・全体の平均点は、本校が43.7(昨年度46.0)、大阪府が44.3(昨年度49.5)で、-0.6(昨年度-3.5)ポイントであった。昨年と比べて、府平均との差を大きく縮めたが、まだ府平均にはわずかに届かない。

・知識・技能は、本校が37.2(昨年度38.9)、大阪府が36.8(昨年度41.0)で、差は+0.4(昨年度-2.1)ポイント、思考・判断は、本校が6.5(昨年度7.0)で、大阪府が7.5(昨年度8.5)で-1.0(昨年度-1.5)ポイントと、観点別では知識・技能が府平均を上回り、思考・判断も府平均にあと1.0まで縮めた。

・問題形式別で見ると、府平均との差が選択式で-1.2(昨年度-4.1)ポイント、短答式で+1.1(昨年度+1.5)ポイント、記述式で-0.4(昨年度-0.9)ポイントと、選択式・記述式で差を縮めたものの、短答式では府平均を上回る数値が減っている。

・分野別では、昨年度は地理・歴史とも府平均より低いが、歴史的分野+1.5(昨年-0.3)ポイントとなり、府平均を上回った。地理的分野も-2.1(昨年度-3.2)ポイントと、府平均との差を縮減している。

・正答率で比較すると、府の正答率を大きく上回った問題が歴史分野に多く、府の正答率を大きく下回った分野は地理分野に偏っている。特に、日本地理の位置関連が弱く、歴史分野においても歴史地理に関連する問題は、のきなみ正答率が府よりも低くなっている。このことから、小学社会における日本地理の知識が定着しておらず、そのことが中学社会の地理の知識の定着を妨げていることがわかる。都道府県の名前・場所などは、日本地理の必須知識として、早めに定着させることが課題としてあげられる。

令和7年度 大阪市立大正西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

【今後の課題】

【国語】

①③は、「読むこと」に関する事項なので、さらに丁寧に読み取る活動を授業で行いたい。
②に関しては、「我が国の言語文化に関する事項」なので、授業で演習問題に取り組みたい。
また、本校が大阪府の正答率を上回った設問は31問中13問であり、一定の成果も見られる。今後も一つずつ課題に取り組んでいきたい。

【数学】

大阪府平均より昨年度は-3.0点、今年度は+3.8点であった。宿題を毎時間だし、テスト前には習熟度別学習を行うなど、單元ごとの目標を生徒に習得させる取り組みを継続して行ってきた成果が出たと考える。ただし「関数」領域と「記述式」の問題では大阪府平均を超えることができなかった。「関数」領域に関しては設問別の正答率を参考にして指導方法を再考する必要があると考えられる。「記述式」に関しては授業ではもちろんのことすべての教育活動で継続して取り組んでいく必要があると考える。

【理科】

今年度はわずかではあるが、大阪府平均点を下回ってしまった。来年度については、ぜひ大阪府平均を上回ることができるようにすることを最大の目標にする。
すべての領域において実験・観察を行うようにし、自ら予想を立て、考察できるようにしていきたい。

【英語】

大阪府平均より昨年度は+6.7点、今年度は+0.7点であったため、来年度のチャレンジテストでもプラスになることを目標としたい。特に、「聞くこと」「読むこと」は授業の成果が出ているが、「書くこと」や記述式に関しては授業内で新たな取り組みを行い、向上に向けて、生徒自身の考えを述べる場を作らなければならないと考える。

【社会】

・知識・技能の向上には、定期的実施する小テストや練習問題の効能が大きい。今後とも、これらを活用して知識の定着をはかることが重要である。
・同時に必要なのが、記述問題や正誤選択問題などに対応できる応用力・読解および記述力を養うことである。こちらは一朝一夕に身につくものではないので、粘り強い学習姿勢を養うことから始めなければならない。

